

【共催ワークショップ報告記】

第 43 回日本分子生物学会共催ワークショップ報告記

清水 孝彦

国立長寿医療研究センター 老化ストレス応答研究プロジェクトチーム

先週の 2020 年 12 月 2 日から 4 日にかけて第 43 回日本分子生物学会が Web 開催された (<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/>)。日本分子生物学会は、会員数 1.3 万人を越える生命科学分野では最大級の学会であり、多くの基礎研究者が会員や年会参加で関係している。毎年 12 月初頭に年会を開催し、単独会で 7,000 人を越える参加者で毎年賑わっている。今年の年会は、コロナ禍の影響で初めて完全 Web 開催され、多くのシンポジウム、ワークショップ、フォーラム、一般演題が Zoom によるオンライン発表で行われ、かつ基本言語は英語での開催であった。

その中の公募型ワークショップに日本基礎老化学会の共催ワークショップとして応募し採択された。4 日午前に 3AW-17「老化研究から見た代謝・栄養・生体防御の相互連関」のタイトルで発表を行った。オーガナイザーは、当会理事長の丸山光生先生と私が努め、演者は以下の構成で、腸内細菌と老化・寿命制御に関連する研究を行う 7 名の国内外の先生にお願いした。年会事務局から、海外、女性、若手を積極的に加えることが要望され、かつ共催の場合は、会員を半分程度加えることが条件であった。当会からは、伊藤先生、原田先生、樋上先生に発表して頂いた。

3AW-17 老化研究から見た代謝・栄養・生体防御の相互連関

【オーガナイザー】丸山 光生 (国立長寿研)、清水 孝彦 (国立長寿研)

【3AW-17-1】Systemic modulation of lifespan by the gut microbiota

○ VALENZANO Dario Riccardo (Max Planck Institute for Biology of Ageing/CECAD, University of Cologne)

【3AW-17-2】mTOR 経路と腸内細菌がマウス寿命に及ぼす影響

○伊藤 孝 (理化学研究所・環境資源科学研究センター)

【3AW-17-3】加齢による腸内環境変化と脂肪酸受容体

連絡先：清水孝彦

〒 474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430

TEL : 0562-44-5651 (内線 7363)

FAX : 0562-44-6591

E-mail : shimizut@ncgg.go.jp

介した宿主のエネルギー代謝制御

○木村 郁夫 (京大・院生命/東京農工大・院農)

【3AW-17-4】オミクス解析による加齢に伴う腸内環境の変化

○中西 裕美子、大野 博司 (理研・IMS/ 神奈川産業技術総合研・腸内細菌叢プロジェクト/ 慶応大・先端研/ 横浜市大院・生命医科学)

【3AW-17-5】食餌制限下における腸管栄養吸収とグルタミン酸の役割

○原田 綾乃、赤木 一考 (国立長寿研・組織恒常性研究 PT)

【3AW-17-6】A classic gene, *white*, regulates proliferative homeostasis of intestinal stem cells through folate metabolism during aging in *Drosophila*
Sasaki Ayaka, Nishimura Takashi, Takano Tomomi, Naito Saki, ○ Yoo Sa Kan (Kwansei Gakuin University/RIKEN CPR/RIKEN BDR)

【3AW-17-7】カロリー制限による脂肪組織ミトコンドリアの質の向上

○樋上 賀一、小林 正樹 (東京理科大学)

それぞれの先生方に、キリフィッシュやショウジョウバエ、およびマウスと幅広いモデル動物を用いた最新の研究成果を御紹介頂いた。質疑応答は、Zoom 形式であったが、聴取者からはチャット形式で質問をもらい、オーガナイザーが代読して質疑するやり方で進めた。チャット形式のため比較的多くの質問があり、活発な討論が行われ盛会であった。聴講者はのべ人数で 330 名であった。個人的にはオーガナイザーは、慣れない Zoom 操作や質問の確認、時間管理など、気を使うことが多々有り、大変忙しく、これまでの対面式のワークショップと違い、チャットや Zoom 方式に慣れていけないといけないうのが反省点であった。

また今年の年会では、当共催ワークショップと合わせて、老化関連セッションがタイトルを見るだけでも、「1AW-08 核とミトコンドリアのシナジーから紐解く生老病死の分子生物学」、「1PW-15 個体寿命制御に関わる代謝生理メカニズム」、「2PS-10 細胞老化から見た個体老化・加齢性疾患」、「3AS-10T 細胞の老化と疲弊：代謝制御の観点から」、「3PW-04 不老不死は可能か？多様な生物から迫る個体老化機構」、「3PW-08 脳老化および老化関連疾患の解明に向けた横断的アプローチ」と 7 企画が行われ、毎日午前と午後のどこかの講演枠で開

かれる盛況ぶりであった。老化研究の関心の高さが伺えた。今後も当会学術交流委員会を中心に、様々な生命科学系学会との連携を深め、共催ワークショップ等を企画

し、老化研究をリードできるように努力していく思いを強くした日本分子生物学会年会であった。